



TITLE:

日本學術協會第二回大會

AUTHOR(S):

CITATION:

日本學術協會第二回大會. 天界 1926, 6(68): 503-505

ISSUE DATE:

1926-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160579>

RIGHT:

日本學術協會第二回大會

日本學術協會は、昨年學術研究會議の斡旋で成立したものであつて、その主なる目的は學術の綜合的振興を圖るにある。此の企ては歐米諸國又東印度などでも既に多年前から實行してゐるものである。科學及其應用の研究、それ等の教育に従事するもの、且又これに興味を有する者は、誰でも會員に成り得るのであるが、通常會員の會費は年額五圓であり、單に大會のみに出席するものは臨時會員として少額の會費(第二回大會のは一圓)で講演を傍聽し、又見學に参加することも出来る。然し臨時會員は本會の記事大會の講演などを載せた報告書の配布を受けない。

第一回大會は、發會式と共に、昨秋東京に於て、古在東京帝國大學總長を會長として行はれ、其の報告は六百餘頁の大冊子として既に會員に配布された。第二回大會は本年十月十六日(土曜日)から十九日(火曜日)まで京都市に於て舉行する筈で、事務所は京都帝國大學本部内に設けられてある。本年の會長は荒木京都帝國大學總長で、川村理學部教授が副會長として實務に當つて居られ、若干名の理事及評議員も屢々會議を開いて、大會の準備に盡力中である。

今回の第二回大會は主に京都帝國大學構内で舉行し、その日程は大體次の様である。

十月十六日 (土)	午前	總會、會務報告、次期役員改選、會長演說等、
	午後	第一部及第二部に於て學術講演、第三部に於て理科教育講演
	晚	會員懇親會
十月十七日 (日)	晝間	第一部及第二部に於て學術講演
	晚	通俗講演(京都市及大津市に於て)
十月十八日 (月)	午前	第一部及第二部に於て學術講演
	午後	總會、歡迎園遊會
十月十九日 (火)	午前	拜觀
	午後	見學

今日までの所、下の諸氏が大會に出席して講演されることは確實となつてゐる。

北海道帝國大學教授理學博士

東京帝國大學名譽教授理學博士

理化學研究所長貴族院議員工學博士子爵

東京帝國大學教授兼東京天文臺長理學博士

宮 部 金 吾 氏

長 岡 半 太 郎 氏

大 河 内 正 敏 氏

平 山 信 氏

東京帝國大學教授理學博士
 東京帝國大學教授理學博士
 東京帝國大學教授農學博士
 理學博士
 東京師範學校教授
 京都帝國大學教授工學博士
 同 同
 滿洲醫科大學教授文學博士
 中央氣象臺 理學士
 東京高等師範學校教授理學士
 京都帝國大學教授工學博士
 東北帝國大學教授工學博士
 同 理學博士
 九州帝國大學教授理學博士
 同 工學博士
 同 同
 高等園藝學校教授理學博士
 工學博士
 金澤醫科大學教授醫學博士
 大阪府教育主事
 鳥取高等農業學校教授農學士

藤井 健次郎 氏
 脇水 鐵五郎 氏
 麻生 慶次郎 氏
 龜 高德平 氏
 川本 宇之助 氏
 平野 正雄 氏
 渡邊 俊雄 氏
 黑田 源次 氏
 築地 宜雄 氏
 小野 澄之助 氏
 金子 登 氏
 井上 仁吉 氏
 神津 淑祐 氏
 桑木 戎雄 氏
 西川 虎吉 氏
 荒川 文六 氏
 川村 清一 氏
 田中 龍夫 氏
 古畑 種基 氏
 大島 鎮治 氏
 角 倉 邦彦 氏

以 上

拜觀及見學に就ては、尙ほ未だその交渉を了へないものもあるから、確定したものではないが、先づ左の諸所の見込である。

御所、二條離宮、修學院離宮、西本願寺飛雲閣、東本願寺枳殻邸、日本電氣株式會社、同鉛粉工場、島津製作所、上野製作所、陶磁器試驗所、京都市塵埃燒却所、鐘紡工場、鐘紡山科工場、錦光山陶磁器工場、杉本精練工場、川島織物工場、等、

各 係 委 員 氏 名

(一)庶務係	大幸 勇吉	大杉 繁	龜 高德平
	川村 多實二	山本 一清	青柳 榮司
	宮澤 清三郎	新城 新藏	正路 倫之助
(二)會計係	橋本 傳左衛門	谷津 直秀	

(三)接待係

西 内 貞 吉	鳥 瀧 隆 三	近 重 眞 澄
渡 邊 俊 雄	和 田 健 雄	吉 田 卯 三 郎
龜 高 德 平	桑 田 義 備	國 枝 元 治
谷 津 直 秀	前 田 鼎	湯 淺 八 郎
宮 澤 清 三 郎	志 方 益 三	

(四)講演係

市 河 三 祿	石 川 日 出 鶴 丸	石 野 又 吉
逸 見 武 雄	鳥 養 利 三 郎	玉 城 嘉 十 郎
園 正 造	永 井 潛	松 尾 巖
松 山 基 範	郡 場 寛	駒 井 卓
小 松 茂	齋 藤 大 吉	清 野 謙 次
喜 多 源 逸	三 宅 驥 一	鈴 木 文 助

(五)交渉係

小 川 琢 治	大 井 清 一	大 藤 高 彦
龜 高 德 平	田 邊 朔 郎	藤 浪 鑑
青 柳 榮 司	三 宅 驥 一	森 島 庫 太

(六)懇親會係

堀 場 信 吉	松 村 鶴 造
---------	---------

(七)見學係

武 田 五 一	喜 多 源 逸
---------	---------

會 員 歡 迎

別頁日程によつて日本學術協會 (Japanese Association for the Advancement Science) の第二回大會を開きます。本會は我國の學術の振興を圖るのが目的でありまして、今回は創立後まも無い大會であります、成るべく多數の人が會合して、知識を廣め、兼て親交を圖りたいのでありますから、未だ會員になつて居られない方々は、此際通常會員 (會費一ヶ年金五圓) か又は臨時會員 (會費金壹圓、大會報告書を貰はないだけで、他は通常會員と同様に、演説、見學、園遊會にも出席が出来ます) に申込んで下さい。臨時會員は住所姓名職業を記入して會費金壹圓を振替で御送り下されば直に會員證を送ります。

日 本 學 術 協 會

事務所 東京市本郷區帝大理學部動物學教室内

(振替貯金口座番號東京七一四三八番)

臨時出張所

京都市吉田町帝國大學本部

大正十五年八月